## 平成 24年度

# 募集について

平成24年度事業の募集を下記のとおり行います。詳細については募集要項を参照のうえ、ご応募ください。

応	蒀	資	格
11/10	分子	只	18

申請事業の実施主体が、次表の要件を満たすことが必要です。

申	請者	大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の団体・グループ (大学部署、研究室、ゼミ、クラブ、学生サークル等) 又は、地域住民で構成される団体・グループ
活動	活動 実績 団体・グループとして、大学と地域が連携した一定の活動実績を有すること(申請事業は新規のものでも可) ※事業内容・趣旨等に鑑み、活動を奨励することを目的として、実績有無を問わず採択する場合があります。	
自己	已資金	自己資金を有すること(金額の多寡は問わない。)
そ	の他	適正な経理処理・事業報告ができること

### 対象事業

平成24年度中(採択日から年度末まで)に京都市内で実施される、次の要件に該当する事業を対象とします。 (特に大学と地域との深い協働がなされ、地域活性化に貢献するものが望まれます。) ただし、政治活動・営利事業等を目的とするものは除きます。

- ▼ 大学又は地域団体等が実施する、団体・グループとして、大学と地域住民が連携・協働して取り組む事業で、 各区基本計画に掲げる施策や取組と関連したもの
  - 例:保健・福祉、社会教育、まちづくり、学術・文化・芸術又はスポーツの振興、環境保全、 地域安全等の様々な分野における調査研究、市民講座、イベントなど
- ✓ 先進性を有し、他の地域のモデルとして応用、展開が期待されるもの
- ▼ 継続性及び発展性が期待できるもの
- ※学生の活動初動期に対しては、「輝く学生サポート助成」を実施しています。詳細は京都市ホームページをで覧ください。

### 助成金額

助成金の上限は30万円です。採択件数は7~10件を予定しています。

※事業実施が不可能な場合や事前に相談なく事業内容を大幅に変更した場合には、助成金の全額または一部を返金していただくことがあります。

### 応募方法

- ① 区役所・支所、キャンパスプラザ京都等で配布の募集要項・申請書を入手し、募集要件を確認してください。 (大学コンソーシアム京都のホームページからも入手できます。)
- ②申請する事業について、各区役所における「各区基本計画」の担当課を訪問し、担当者と意見交換を行ってください。
- ③ 申請書に必要事項を記入し、申請書類を【8部】用意のうえ、大学コンソーシアム京都へ【郵送】又は【持参】にて提出してください (FAX、メール等での提出は不可。持参は日・月を除く 9:00~17:00)。
- ④ 事業概要について、150字以上 200字以内でまとめ、gaku-machi@consortium.or.jp へ【メール】にて提出してください。 ※複数の団体・グループが連携して助成対象事業に取り組む場合は、いずれかの団体・グループが代表して応募してください。

### 応募期間

### 平成 24 年 4 月 3 日(火)~ 5 月 18 日(金)※必着

### 選考方法

**1次審査** (書類審査)

#### 2次審査

(公開プレゼンテーション審査) 発表 5 分・質疑応答 5 分 6/30(土)午後からを予定

### 採択決定 **認定式** ※7月初旬~

中旬を予定



### 申込等一般のお問合せ先

☆ Affi 大学コンソーシアム京都 学まちコラボ事業 担当 は人 The Consortium of Universities in Kyoto (※日・月を除く9:00~17:00)

T E L 075-353-9163 F A X 075-353-9101

E-mail gaku-machi@consortium.or.jp

U R L http://www.consortium.or.jp

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

### 本事業の企画等への お問合せ先

京都市 総合企画局 市民協働政策推進室 (大学政策担当) ▲▲

T E L 075-222-3103 F A X 075-213-0443

発行 京都市総合企画局市民恊働政策推進室 京都市印刷物 第244046号

# 平成24年度募集

# 学まちコラボ事業

### 大学と地域の協働による取組に助成金を交付し応援します!

京都市・(公財)大学コンソーシアム京都では、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」に基づき、大学と地域との連携による取組に対して助成金を交付する「学まちコラボ事業(大学地域連携モデル創造支援事業)」を実施しています。

この事業は、大学にとっては実践的な教育・研究機会の確保による人材育成などを、地域にとっては大学の知や学生の活力による地域の課題解決や活性化を図ることを目的としています。

また、この取組を各区基本計画に掲げる施策と関連づけることで、各区基本計画の推進に役立てるとともに、取組成果等を広く市民に周知したり、地域との取組を行う他の団体等とのネットワークづくりなどを支援することにより、大学と地域との連携をより一層促進することを目指します。

~平成23年度 採択プロジェクトの様子~



みんなでつくった構口公園・ "わんぱく広場 "化 大作戦



ものづくり・ことづくり ルネッサンスプロジェクト





都ライト



嵐山・七夕文化のまちづくり



自主防災の定着を目指して ~子どもの防災の第一歩~



よう北野まつり



大宮防災と福祉の まちづくり推進プロジェクト



上賀茂神社観月祭における 京造ねぶた計画と 葵ねぶたワークショップ



# 平成23年度 採択プロジェクト紹介 事業概要と成果

# 1 よう北野まつり

特定非営利活動法人 よう北野まつり (佛教大学)/上京区



事業 地域におけるつながりの 希薄化が嘆かれている中、つながりを創るためのきっかけづくりとして、8月16日に北野天満宮で、よう北野まつりを開催する。祭で出会った人と気軽にコミュニケーションを取ることによって、人と人とがつながり、笑顔と元気が溢れるまちを目指す。

- チラシ配布や挨拶回りなどの活動を行う中で、近隣店舗や商店街の方と学生の接点ができ、地域に愛着を持つことができた。
- 昨年よりも多い、約2,000名の来場者があり、参加者からは「盆踊りを初めて踊ったが、楽しかった。また来たい」という声が聞かれた。
- 後日、佛教大学のコミュニティキャンパスを利用して、よう北野まつり写真展を実施し、当日参加できなかった地域の方へも報告する場を設けた。

# 2 ものづくり・ことづくり ルネッサンスプロジェクト

京都造形芸術大学 近代産業遺産 アート再生プロジェクト「まか诵V」/東山区



事業 東山区の様々な地場産業 概要 の担い手である職人の技術・知識など、生の声を拾い上げ、伝承すべき匠の技と住民の智恵、また日本独自の文化や習慣を次世代につなぎ、東山の文化・伝統産業の伝承と発展に寄与する アレを目指す

- ↑ 六原地域の空き家および空き地を「まか通」メンバーが借り、身近な"ものづくり実践"の場として、次世代を担う子どもたちを中心としたワークショップを展開した。
- 職人、ものづくり・ことづくりに関したイベントを意識して開催した。フィールドワークや職人の方へのヒアリング調査を行い、11月の職人ツアーでは参加者から「知らない世界が見れた。またぜひやってほしい。」という意見があり、職人と一般の方とをつなぐ架け橋の役割を果たすことができた。
- 活動冊子は、東山区役所、東山区図書館、六原自治連合会、大学内、 その他大勢の方に配布しているが、今年度は普段ふれる機会のな い職人という分野に切り込んだ冊子となった。

### 3 都ライト

都ライト実行委員会 (京都精華大学・京都造形芸術大学・ 立命館大学・京都教育大学)/上京区



事業 京の伝統建築である町家 で舞台に、照明によるって「暮らしの灯り」を表現し、格子 状の美しい光で通りを照らし出す。新たに「学び」の視点を取り入れ、学生と住民による照明・町 でまに関するワークショップな どを行うことで、より豊かな「都ライト」を目指す。

- 本年度の活動の大きな柱の一つである「学びの場の形成」の実現の ため、「灯りのワークショップ」など、全てのワークショップを地域 や一般の方に開放することで、「学生と地域が共に学ぶ場」を形成 した。
- ワークショップの開催や灯りの実験などを行い、その成果の披露のために10月に釜座町町家にて「都ライト[実験編]」を開催し、美しい京町家を舞台として、私たち学生が考える「都ライトのあるべき姿」を披露した。
- 都ライト[実験編]で発表した都ライトの新しいデザインを、通りサイズに適用して11月に「都ライト2011」を開催した。当日は町家からもれ出す灯りだけではなく、併設イベントとして西陣織の工房見学や、東日本大震災復興支援企画として、岩手県北上市の伝統芸能の舞や物産展などが開催された。

# 4 嵐山・七夕文化のまちづくり

嵐山商店街(京都嵯峨芸術大学)/右京区



事業 少なくなりつつある七夕 の伝統行事を地域が一体 となって、継承、発展することを 目的に、芸術大学のデザインを中心とした取組との連携により、より魅力ある街並み景観づくりや、観光客も気軽に参加できる七夕事業を創造する。

- 東北地方の風鈴飾りやオリジナル短冊を商店街にかざる事業「再び恋来(こいこい) 嵐山~七夕に願いを込めて~」やお香の講座や嵐山地域の要所にお香の焚きあげを行う事業「嵐山 恋する香りめぐり」を実施し、多くの参加者に嵯峨嵐山地域の商店街が一体となった七夕を味わってもらえた。
- 嵯峨嵐山地域と大学がひとつのテーマで協力することにより、これまでの事業にさらに新規性が出て、新しい活動へ変化していけた。
- お香の老舗や地元幼稚園との連携など地域内外の関係者とのコラボレーションにより、地域を魅力的にする新たな取り組みができることが発見でき、地域と大学の連携事業として、七夕の展開が毎年の定例的な行事として期待されるようになった。

# 5 自主防災の定着を目指して ~子どもの防災の第一歩~

京都橘大学 救急救命研究会 -TURF- /山科区



事業 市民の方を対象とする心 肺蘇生法の普及活動やの体 は自分で守る」という災害対応 な自分で守る」という災害対応 次行動を身につけるための中 を展開するなど、山科区を中の に、更なる防災意識の向上を をした、更なる防災意識の向上を る。また地域イベントで救護を を行うなど安心、安全な地域を目 指す。

- 夏祭りや地蔵盆、京都学生祭典などにおける救護活動を通じて、地域住民の方に研究会の存在を知ってもらう機会になった。今回の活動を通して昨年度の課題であった、行政機関との連携が構築でき、さまざまな行政のイベントに参加できるようになった。
- 今年度の新たな取り組みとして、幼児向け防災教育用カードゲームを用いて子ども向けに防災教育を実施した。参加した子ども達は、災害(台風、地震、火事など)時に取るべき災害対応一次行動を楽しく理解した。
- 新たな学区として、勧修学区のハザードマップを地域の方の意見 を取り入れ作成し、危機管理につなげると共にその学区の方との 関係を深めることを目標に活動を行った。

# 6 みんなでつくった構口公園・ "わんぱく広場 "化 大作戦

梅津まちづくり委員会(立命館大学)/右京区



事業 構口親水公園において、自 自然環境と触れ合い、自 ら創意工夫をこらして遊ぶ中で、 親も子もたくましく成長するこ とを目指す"わんぱく広場(冒険 遊び場)"をつくり出す。また、本 事業が、若い親世代の地域活動へ の参加のきっかけとなることを

- 企画を追うごとに子どもや保護者の参加は増え、川遊び・忍者修行・火を使った遊びと、どの企画も普段体験することのないものばかりで、子ども達からは「最初は怖かったけど、だんだん楽しくなってきた」「ノコギリを初めて使ったけど、自分で竹を切れたのが嬉しかった」との声が聞かれた。保護者も積極的に子どもとイベントを楽しみ、「「普段できないことが体験できてよかった」「子どもも大人もとても楽しめた」といった声があった。
- 普段の公園ではできないわんぱく遊びをすることにより、多くの 参加者が集まり、公園の存在が認知されるようになった。また公園 全体を使用した新鮮な遊びや親子そろってのイベントの参加がより大きな印象を与えた。
- 様々な団体を巻き込んだ地域ネットワークづくりは、「子どもたちの場をつくる」という皆の思いが共通していたこともあり、学校運営委員会をはじめ、まちづくり委員会、少年補導委員会、小学校PTAやおやじの会など多くの地域団体の連携につながり、梅津の新たなネットワークの広がりが見出せた。

# 7 大宮防災と福祉の まちづくり推進プロジェクト

大宮防災と福祉のまちづくり応援隊 (佛教大学)/北区



事業 概要 大宮学区における「大宮 につとかへんで運動」(災 害時要配慮者登録制度)に地域で 暮らす学生が積極的に関わるための働きかけや、総合防災訓練等 において、学生の手による「子ど もの遊び場」の運営。また、災害 発生時を想定した「家族で一番大 切な写真を預かります事業」を実施する。

- ●「大宮ほっとかへんで運動」は、地域内での近隣支援者の確保が喫緊の課題であったが、学生が登録、取り組みの担い手になることを表明したことで、地域において大きな励みとなり、また具体的な近隣支援者確保に貢献できた。地域の声として「学生がここまでやるといっているのに、地元の者が何もしないわけにはいかない」「私たち自身が地域のことをもっと考えて、取り組みを進めていかなければならない」という声が聞かれ、地域の意識高揚に寄与できたと思われる。
- 避難所運営訓練において、子どもの遊び場の開設を行ったが、地元の児童館とともに避難所運営の一助を担った。災害時に子どもが災害時要配慮者になり得るという認識を専門機関と連携の下、地域に周知・理解を促すことができた。
- ●「写真を預かります事業」を行うことで、家庭の中で、災害に対して考える機会が設けられ、意識高揚が促進された。

# 8 上賀茂神社観月祭における 京造ねぶた計画と 葵ねぶたワークショップ

京都造形芸術大学 芸術教養教育センターマンデイプロジェクト/北区



事業 なたば葵をモチーフとした葵ねぶたを小学校の児童を含む地域の方々と制作するとともに、上賀茂神社の観月祭において、京都造形芸術大学での京造ねぶたを展示することで、地域の活性を促し、大学、神社、地域の協働で新たな祭の創成につなげていく。

- 京都造形芸術大学にて2007年度より開始した京造ねぶた24基と大宮小学校の児童がワークショップで制作した葵ねぶた(ふたば葵をモチーフ)を上賀茂神社に展示した。点灯式では、京造ねぶた24基と葵ねぶたの点灯で境内に壮大な灯りのパノラマが展開でき、地域の方々に感動を与えることができた。賀茂葵コミュニティ、上賀茂自治連合会等の協力も得ることで、地域の方々の祭り的なものとして認知された事業となった。
- 未完成のねぶたを上賀茂神社に搬入し、炎天下のなか必死に完成を目指す800名近い学生の奮闘に、地域近隣、神社の方々から応援をいただき、励ましてくださったことで、実施した事業以上に人との繋がりを改めて実感できたのは大きい。